

弓道いばらき

令和4年6月 第44号

発行者 笠間市箱田大郷戸1-31

茨城県弓道連盟

理事長 高松 清

<http://ibakyuren.com>

会長就任のご挨拶



茨城県弓道連盟 会長 中嶋 鉄郎

この度、久保田清先生が会長職を勇退され、後任を務めさせていただくことになりました。改めまして茨城県弓道連盟会員の皆様方のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて会員の皆様方は、元会長柴田猛先生、前会長久保田清先生をよくご存知であると思いますが、それにひき替え「中嶋鉄郎とは誰か？」と思われる方も多くおられるのではないかと思います。したがって、はじめに自己紹介をさせていただきます。

私は、新潟県上越市吉川区の生まれです。農家の四人兄弟の末っ子でしたので、将来は地元から離れることを運命づけられて育ちました。中学三年生になる四月、単身東京で働いていた父の元に行き、区立中学に転校し、そして都立高校を卒業しました。水戸市で大学生生活を過ごし、大学卒業後県立高校教員になりましたので両親は守谷市に引っ越しまし

た。私は境町に住み、その後境町で家庭を持ち現在に至っております。

昭和五十年四月に境高校勤務と同時に弓道部顧問になりました。弓道場はなく、野天で練習しておりました。部員も少なかったのですが、顧問北島瑞男先生（元副会長）が指導された三年女子三名が活躍しておりました。その生徒たちに最初の手ほどきを受け、嫌々ながら弓道を始めました。

当時高体連弓道専門部委員長は柴田猛先生でした。先生は、高体連の先生方に対して、頻繁に講習会を開催してくださいました。私は「生徒の指導のために、まず自分の技術を向上させよう。」と考え、講習会があれば参加するように心がけました。特に柴田先生が講師をされた講習会は必ず参加しました。また、県西地区の高校の弓道部顧問の先生方は、自らも弓を引かれていて、谷島英一

先生（下妻二高）、宮田孝夫先生（古河二高）、青木一男先生（下妻一高）、張替謙一先生（北総高校・現在八千代高校）、門井了先生（下館一高）など錚々たる方々でした。このどこかの高校が毎年関東大会または全国大会出場を果たされるような方たちの集団でした。私にとっては、この先生方の指導方法を学ぶ機会にも恵まれていました。さらに、柴田先生が全日本弓道選手権大会において優勝（一九八〇年）された頃から、毎年県西地区の高校生対象に講習会の講師を務めてくださいました。先生は、生徒の目の前で実際に矢を射ながら具体的に解説してくださいました。その範示のお姿の素晴らしい驚きと感動に包まれたことを今でも忘れません。その後も柴田先生に指導を仰ぎ現在に至っています。以上が私の経歴ですが、現在まで県弓連から恩恵を受けるばかりの年月を過ごして参りました。したがって、県弓連に対する最後の務めとして、役割を果たさせていただくつもりです。

さて、令和三年度を振り返りますと、コロナウィルス感染拡大にともない二年間に渡り制限された中で、大会、審査、講習会等の開催でした。一部中止も余儀なくされましたが、各部の役員の方々の並々ならぬ創意工夫により感染することなく、各行事が開催できましたことはたいへん喜ばしいことです。

県外大会では、第七十二回全日本弓道大会（地連別通信大会）において、教士の部明勲教士が気力溢れる射で見事第四位を獲得されました。中体連・高体連については、第二十回東日本高等学校弓道大会五人制女子の部において、龍ヶ崎第二高等学校が優勝、第三十一回関東中学生弓道大会において男子第二位高井硯（東海中）、第八位小暮楓太（東海南中）、女子第七位金久保琴（猿島中）、第十八回全国中学生弓道大会女子団体の部において清真学園中学校が優勝、個人の部男子第三位藤田怜生（水戸二中）、女子の部第二位曾ヶ端柚奈（清真学園中）第三位難波真由（清真学園中）の入賞でした。第六十五回関東高等学校弓道大会男子団体の部において県立水戸桜ノ牧高校が準優勝という栄誉に輝きました。このように中・高校生の活躍が目立ちますが、それを支えておられる中・高体連の先生方のご指導ご苦

労に敬意を表します。

また県外審査においては、七段二名（海老根芳枝、後藤裕一）、教士六名（塩津多恵子、村上美保、辻尚宏、小出則行、境貴洋、荻野

改善することが必要ではないかと考えます。みなさんのご意見を伺いながらより良い運営の方向付けをしていきたいと考えております。

淑江）、六段六名（尾吹将大、菊地俊和、沓掛忠三、飯田悦子、山口純、岩田隆）、錬士十名（谷田部大地、久保田亮、古山道子、小林美環、小沼隆史、石川直人、杉山義光、野口久、橋本真樹、大金

最後に、私は錬士昇格が昭和六十二年（一九八七年）、六段昇格が平成十八年（二〇〇六年）でした。この二十年間は苦しみの連続でした。錬士昇格からわずか一ヶ月で

勉、計二十四名の先生方の昇段・昇格がありました。例年になく多くの方々の昇段・昇格がありましたことは、個人の日頃の精進とお互いの切磋琢磨された結果であると思います。更なる修練を期待しております。

今思えば早気の気質はあったように思いますが、いくら練習しても早気は修正できず、矢が口割りに付いた瞬間に離れてしまうという状態になってしまいました。早気から十五年経った頃でしょうか、「もう弓道はやめよう。」とも考え

昨年度久保田前会長は、一、若い世代の強化、発掘、底辺拡大、二、会員各人の心を養うこと、の方針を挙げておられます。令和四年度もこの方針を引継いで参りたいと考えます。そして、第三点目に、コロナ感染収束後の大会・審査会の開催方法の検討に入りたいと考えています。コロナ前の方法がすべて正しいというのではなく、改善できることは積極的に取り入れて

えましたが、一つだけ挑戦していいことに気が付きました。それは、矢を番えて壁に向かって会まで引くことでした。実際にやってみると、会まで引けて何秒も持っていることができるのです。それは驚きであり、早気克服の可能性を感じた瞬間でした。「離すまい」と決めて引くと、いくらでも持つていられるのです。ところが「離す」と決めて、巻藁や的前に立つと早気になってしまうのです。

早気は「心の問題」かと考えたが、ハッと思い出したことがありました。柴田先生のご指導の中で「会を楽しむ。」「会でやることはいっぱいある。」という言葉でした。結論から言いますと、私の場合は「会」というものを全く理解していなかったことが原因でした。

「離さない」と決めて的前に立つことと、「離す」と決めて的前に立つことの違いは何か。「会」の構成要件は何か。ということを理解できるまでに更に三年を要しました。結果、早気は克服することができました。早気で苦しんでいる方々がおられるかと思いが、必ず直ります。諦めずに取り組んでいただきたいと思います。

拙い経験を述べましたが、弓道の面白さ・楽しみ方は、一人ひとり異なっていると思います。弓道の奥深さがそこにはあるからではないでしょうか。「心を養うこと」とは、不断の努力の積み重ねであり、悩んでも孤立することなく互いに高め合う仲間と共に求めていただきたいと思います。

令和四年度に向けて



理事長 高松 清

今年度の役員改選にあたり引続き理事長を務めさせていただくこととなりました。職責の重圧は計り知れませんが精一杯努力し、県弓連の円滑な運営のため一生懸命事務を執行してまいりたいと思います。

ました。

さて、昨年度は皆様に支えられた中での県連運営でしたが、新型コロナウイルス感染防止の影響で多くの行事が中止や変則的な開催となりました。全国的にみれば、コロナ感染については緩やかな減少傾向にありますが引続き注視していく必要があると考えています。

また、審査会では全弓連からコロナ禍以降に特別措置として実施された中高生審査会のビデオ審査が継続して実施され「ビデオ審査に関する要領全弓連審査委託事業ガイドライン」に準じての審査会には、各校への手配やビデオの編集等、大変なご苦労であったことと思います。

令和四年度の理事会は少人数であることから、会議を開催し議案の審議をいただきました。代議員会は多人数の会議であり開催は困難な状況と判断し、昨年に引き続き書面での決議とさせていただきます。

第一号議案「事業報告」では競技大会では開会式等を取りやめて部門ごとの分散開催にするなど、運営面で様々な工夫と対応措置が取られているのが現状です。講習会でも外部講師招聘講習会をはじめ多くの講習会が中止され

結果等、指導部からは講習会の開催状況等研修事業について報告が

ありました。審査部からは一般審査・中高生審査・連合審査の実施状況及び推薦における合格者の掲載等、強化部からは強化事業について報告があり承認をいただきました。

続いて、第二号議案「決算報告」では、支部別会員登録数千七十五名であったことをはじめ一般会計・各専門部会計・大規模大会等基金について収支報告がありました。この収支については、令和四年四月二十三日に監査を実施し、

監事より適正に処理されている旨の結果報告をいただいております。承認をいただきました。

第三号議案「令和四年度事業計画（案）」では茨城県弓道連盟行事予定を例年どおり計画し承認されました。しかし、新型コロナウイルスの影響で引続き変則的な開催が見込まれます。

また、第四号議案「令和四年度一般会計予算（案）」では、各事業費の予算配分が承認されました。

第五号議案「役員改選」では、茨城県弓道連盟役員等候補者選考委員会規約により、役員等候補者

選考委員会で新会長、監事が選出されました。今年度の役員及び理事の改選については副会長2名、指導部長、施設部長、広報部長が新たに選任され承認されました。

再任された役員及び理事の方々とともに邁進して参りますとともに、前任の役員・理事の先生方には本連盟の運営に多大なるご尽力とご功績に心より感謝申し上げます。報告事項として新支部「ときわ」が水戸地区に設立されたことが報告されました。

令和四年度も新型コロナウイルス感染防止の対策をしながら全会員の安心・安全を最優先に考えてそれぞれの行事を進めて行かなければならない状況であると考えております。そのような中、茨城県弓道連盟の登録者数も減少傾向にあることを憂えるものです。弓道教室をはじめ地域活動をより進められ、弓道を継続できる環境づくりを会員の皆様にはお願いいたします。最後になりますが、今後も皆様方のお力添えをお願いするとともに、皆さま方の益々のご発展、ご活躍をご祈念いたします。

総務企画委員長就任にあたって



総務企画委員長 森 昭夫

この度の役員改選にあたり、前委員長明間勲先生から総務企画委員長を引き継ぎ、その任にあたることになりました。

本委員会は平成十八年度に発足。初代張替謙一→天冨子→木村喜久雄→張替謙一→白石直之→明間勲

の各先生方が委員長としてご活躍されています。小職としては第七代の委員長ということになります。前年度に総務企画委員会のメンバーに選任されたばかりでしたが直ぐ委員長ということで、微力ではございますが四人の委員と共に会長の諮問に答えられるよう務めさせていただきます。

総務企画委員会の役割は、茨城県弓道連盟総務企画委員会規約第二条に「委員会は、弓道指導方針の策定、審査会の合理的運行の検討、国体選手強化計画の策定、連

盟活性化の施策など、会長が会務に要する重要案件を付託し、長・中期的にまとめて会長に報告するものとする」とあり、会長の諮問機関として機能してゆかなければなりません。

早速会長から以下の検討案件がご提示されています。

一、コロナ感染収束後の県大会、審査会（特に中・高校生）のあり方について

（一）現在、県大会は部門ごとに受付、競技、表彰の形式で実施していますが、コロナ以前のように開会式から閉会式までの形式に戻すべきか、ご検討ください。

（二）中・高校生のビデオ審査は生徒を一カ所に集めることなく、各学校において実施することができました。以前は大会以上に一手のために早朝から遅くまで拘束して

いました。果たして中・高校生を長時間拘束する必要があるのかご検討ください。ただし、全弓連の審査方針との整合性を考慮していただきたいと思います。

二、若手育成のための方策について

（一）中学生と高校生の連携のあり方について

特に学校における部活動が縮小していく方向にありますので、今後県連としてどのような方向にいかればよいのか、具体的な方策をご検討ください。

（二）弓道界も高齢化は避けられず、若手育成に取り組む必要があります。

（一）同様に県連の取り組みべき方策をご検討ください。

以上の項目について、これから会員の皆様方のご意見を集約し、討議検討して会長へ答申していきたいと考えております。

最後に会員の皆様へお願いとして、連盟運営上の問題点（個人的な誹謗中傷は除く）があれば支部長を通して本委員会へご提案いただければ幸いです。

茨城県弓道連盟

新型コロナウイルス
感染症拡大防止対
策ガイドライン

主催者が遵守すべき事項、参加者が遵守すべき事項のガイドラインです。

主催者用

1. 一般的な事項

- ・このチェックリストを適切な場所に掲示する
- ・各事項がきちんと遵守されているか会場内を定期的に巡回・確認する
- ・感染が発生した場合に備え、個人情報取扱いに十分注意しながら、参加当日に参加者より提出を求めた書面について、大会後1ヶ月間保存しておく
- ・事業後に参加者から新型コロナウイルス感染症を発症したとの報告があった場合の対応方針について、施設の立地する自治体の衛生部局とあらかじめ検討しておく

〔例〕水戸市 相談窓口…

029-306-6233
午前9時から午後5時まで

(平日のみ)

2. 参加者について

- ・当面の間、参加者を次のように限定する
- ・本部役員、運営役員
- ・参加申込をした者（選手及び監督等）
- ・役員の人数は最小限とする
- ・三つの密を避けるため、参加者以外の一般観戦は当面の間禁止とする（参加申込案内で連絡する）

3. 参加申込について

- ・感染拡大防止のため、参加者は文書で次の措置を求める
- ・以下の事項に該当する場合は、参加を見合わせる（事業当日に書面で確認を行う）
- ・体調がよくない場合（例 発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）
- ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
- ・過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- ・マスクを持参する（行射中以

外はマスクを着用すること）
こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施する

他の参加者、役員等との距離（できるだけ2m以上）を確保する

- ・参加中に大きな声で会話等をしない（矢声禁止、応援禁止）
- ・三つの密を避けるため、参加者以外の一般者等の観戦は当面の間ご遠慮願う
- ・感染防止のために主催者が決めたその他の措置の遵守、主催者の指示に従う
- ・事業終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告する

4. 会場について

〔控室、更衣室、休憩・待機スペース〕

- ・広さにはゆとりを持たせ、他の参加者と密になることを避ける（障がい者の介助を行う場合を除く）
- ・ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する参加者の数を制限する等の措置を講じる
- ・複数の参加者が触れると考え

られる場所（ドアノブ、テーブル、イス等）については、こまめに消毒する

- ・1時間おきに換気用の窓をあける等、換気に配慮する
- ・アルコール等の手指消毒剤を設置する

〔洗面所〕

- ・複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、水洗トイレのレバー等）については、こまめに消毒する
- ・手洗い場には石鹸（ポンプ型が望ましい）を用意する
- ・「手洗いは30秒以上」の掲示をする
- ・手洗い後に手を拭くタオルは各自用意して、共有しない
- ・手指を乾燥させる設備がある場合は使用しないようにする

〔観覧席〕

- ・参加者同士が密な状態とならないよう、あらかじめ観客席の数を減らすなどの対応をとる

- ・「矢声・応援禁止」および「マスク着用」の掲示をする

〔第2控・第3控、集合場所〕

- ・参加者どうしの間隔が密とならないよう、ゆとりをもつて配置する
- ・飛沫防止のため、私語を禁止

する

- ・射場内、行射中のマスク着用は行射者の判断に任せる
- ・行射者以外の参加者、監督は常にマスクを着用する
- ・複数の参加者が触れると考えられる場所（イス等）については、こまめに消毒する（消毒剤を設置する）

〔記録席・審判席〕

- ・役員どうしの間隔が密にならないよう、ゆとりをもつて設置する
- ・複数の大会役員が触れると考えられる場所・機材（机、イス、トランシーバー、マイク、双眼鏡、看的表示板、的中数表示板、○×表示器等）については、交代時に消毒する（消毒剤を設置する）
- ・筆記用具は各自持参し、共有しての使用は行わない
- ・矢取りの参加者どうしが密にならないよう、看的小屋の外で待機させる

〔顧問控室・本部〕

- ・密な状態とならないよう、必要に応じ、あらかじめイスの数を減らすなどの対応をとる
- ・換気用の窓をあける等、換気に配慮する
- ・入退室の前後に手指の消毒を

する(消毒剤を設置する)

・複数の役員が触れると考えられる場所(机、イス等)については、こまめに消毒すること

「巻き藁室・遠の場」

・行射前は、控室↓巻き藁練習↓集合場所↓第3控↓など参加者導線を一方方向になるように工夫する

・巻き藁室(役員控え室)も密にならないように配慮をする

・換気用の窓をあける等、換気に配慮する

・開始前以外の巻き藁練習は遠慮してもらう

「更衣室、休憩・待機スペース」

・広さにはゆとりを持たせ、他の参加者と密になることを避けること(障がい者の介助を行う場合を除く)

・ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する参加者の数を制限する等の措置を講じること

・室内又はスペース内で複数の参加者が触れると考えられる場所(ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、イス等)については、こまめに消毒すること

・換気扇を常に回す、換気用の小窓をあける等、換気に配慮すること

すること

・スタッフが使用する際は、入室の前後に手洗いをすること

5. 開場・入場について

・参加者どうしが社会的距離を開けて並ぶように呼び掛け、整然と入場させる

・マスクを着用させる

・参加者がマスクを準備していないかの確認をする。持っていない場合は各自購入してきてもらうか入場を遠慮してもらう。(主催者側で販売はしない)

・入口には、手指消毒剤を設置する

・発熱が軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がある人は入場しないように呼び掛ける(状況によっては、発熱者を体温計などで特定し入場を制限する)

・発熱が軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がある人は入場しないように呼び掛ける(状況によっては、発熱者を体温計などで特定し入場を制限する)

・発熱が軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がある人は入場しないように呼び掛ける(状況によっては、発熱者を体温計などで特定し入場を制限する)

・発熱が軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がある人は入場しないように呼び掛ける(状況によっては、発熱者を体温計などで特定し入場を制限する)

・発熱が軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がある人は入場しないように呼び掛ける(状況によっては、発熱者を体温計などで特定し入場を制限する)

6. 受付について

・当日の出席確認の受付は、代表者が参加者の体調チェックシートを纏めて提出すること(密を避ける)

・受付を行う役員は、マスク、フェイスガード、ゴム手袋を着用する

・距離をおいて並ぶように呼びかける

・受付場所での現金の授受を行わない

・参加者に以下の事項を記載した書面の提出を求める(書面は支部毎に回収し、受付に提出する)

①氏名、住所、連絡先(電話番号)※個人情報取扱に十分注意する。主催者が1か月間保存

②参加当日の体調管理チェック

③参加前14日以内における以下の事項の有無

・発熱の症状

・息苦しさ(呼吸困難)

・だるさ(けんたい感)

・嗅覚や味覚の異常

・新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無

・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合

・過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

・発熱の症状がある場合、上記③の内容に該当する場合および書面に不備がある場合

・発熱の症状がある場合、上記③の内容に該当する場合および書面に不備がある場合

・発熱の症状がある場合、上記③の内容に該当する場合および書面に不備がある場合

・発熱の症状がある場合、上記③の内容に該当する場合および書面に不備がある場合

は大会への参加は遠慮してもらう

7. 役員打合せについて

・役員打合せは密を避けるため、事前にメール等を利用して事前に行うことを勧める

・当日の打合せは射場等、広い場所で行う

・マスクを着用するなどの感染対策に十分に配慮する

8. 開会式・閉会式について

・矢道を利用するか、参加は各支部代表1名にするなどする。運営によっては開催しない

・式参加者どうしの間隔は、両手を広げた間隔で整列する

・閉会式への参加は入賞した選手のみとする

・式参加者どうしの間隔は、両手を広げた間隔で整列する

・閉会式への参加は入賞した選手のみとする

9. 当日の準備・片付けについて

・係、役員どうしが密にならないように呼びかける

・使用した場所・機材(机、イス、パソコン、トランシーバー、マイク、双眼鏡、確認旗、看的表示板、的中数表示板、○×表示器等)については消毒を行う

・準備・片付けの後は石鹸と流水で手を洗い、手指消毒する

・準備・片付けの後は石鹸と流水で手を洗い、手指消毒する

・準備・片付けの後は石鹸と流水で手を洗い、手指消毒する

・参加者が飲食で出したゴミは各自で持ち帰らせる

・ゴミを回収する人は、マスク、ゴム手袋を着用し、鼻水、唾液などが付いたごみは、ビニール袋に入れて密閉して処分する

・マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸と流水で手を洗い、手指消毒すること

・参加者が飲食物を手にする前に、手洗い、手指消毒を行うよう声を掛けること

・スポーツドリンク等の飲料については、ペットボトル・ビン・缶や使い捨ての紙コップで提供すること(ただし、ドレーピング検査の対象となる者が参加するイベントでは、未開封の飲料を提供しなければならぬこと)

・果物等の食品については、参加者が同じトング等で大皿から取り分ける方式を避け、一人分を小皿に取り分けたものを参加者に提供するなど、工夫を行うこと

・飲食物を取り扱うスタッフにはマスクを着用させること

・飲食物を取り扱うスタッフにはマスクを着用させること

・飲食物を取り扱うスタッフにはマスクを着用させること

・飲食物を取り扱うスタッフにはマスクを着用させること

・飲食物を取り扱うスタッフにはマスクを着用させること

・飲食物を取り扱うスタッフにはマスクを着用させること

・飲食物を取り扱うスタッフにはマスクを着用させること

・飲食物を取り扱うスタッフにはマスクを着用させること

・飲食物を取り扱うスタッフにはマスクを着用させること

・飲食物を取り扱うスタッフにはマスクを着用させること

・飲食物を取り扱うスタッフにはマスクを着用させること

10. 飲食物の提供時

・参加者が飲食物を手にする前に、手洗い、手指消毒を行うよう声を掛けること

・スポーツドリンク等の飲料については、ペットボトル・ビン・缶や使い捨ての紙コップで提供すること(ただし、ドレーピング検査の対象となる者が参加するイベントでは、未開封の飲料を提供しなければならぬこと)

・果物等の食品については、参加者が同じトング等で大皿から取り分ける方式を避け、一人分を小皿に取り分けたものを参加者に提供するなど、工夫を行うこと

・飲食物を取り扱うスタッフにはマスクを着用させること

・飲食物を取り扱うスタッフにはマスクを着用させること

・飲食物を取り扱うスタッフにはマスクを着用させること

・飲食物を取り扱うスタッフにはマスクを着用させること

・飲食物を取り扱うスタッフにはマスクを着用させること

・飲食物を取り扱うスタッフにはマスクを着用させること

・飲食物を取り扱うスタッフにはマスクを着用させること

・飲食物を取り扱うスタッフにはマスクを着用させること

感染防止チェックリスト

(参加者用)

【参加者が遵守すべき事項】

- ・以下の事項に該当する場合は、自主的に参加を見合わせる（利用当日に書面で確認を行う）
- ・体調がよくない場合（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）
- ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
- ・過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- ・マスクを持参し着用すること（行射中以外はマスクを着用すること、行射中は判断に任せる）
- ・こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること
- ・他の参加者、主催者、役員等との距離（できるだけ2m以上）を確保すること
- ・大会中に大きな声で会話、応援等しないこと（矢声禁止）
- ・感染防止のために主催者及び施設管理者が決めたその他の措置の遵守、指示に従うこと
- ・大会終了後2週間以内に新型

コロナウイルス感染症を発生した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること

- ・行射前後の見学においても、三つの密を避けること
- ・タオルは各自持参し共用はしないこと
- ・飲食については、周囲の人と社会的距離を取って対面を避け、会話は控えめにする
- ・飲食後のゴミは各自が持ち帰ること

※この新型コロナウイルス感染症拡大対策ガイドラインは、今後の感染状況や政府関係機関からの指導を踏まえて逐次見直すことがあります。茨城県弓道連盟のホームページでお知らせします。

【参考】

公益財団法人日本スポーツ協会
公益財団法人日本障がい者スポーツ協会
「スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」



専門部だより

指導部

部長 福地 平



新型コロナウイルス感染者が確認されてから三年、流石に疲

れました。発生直後は一年位で収束すると思っていたので想定外です。皆様も弓道の稽古や日常生活に大変苦慮されていると思います。

さてこの度、前任の米山先生の後任として指導部長を拝命した水戸市支部の福地平です。年齢的にも、お世話になった茨城県弓道連盟に貢献しようと思ひ引き受けました。微力ではありますが精一杯努めますのでよろしくお願ひします。まだまだコロナ禍で予断を許さない状況ですが、感染防止対策等に十分配慮し計画していきますので、講習会等への参加をお願いします。

昨年度は新型コロナウイルス感染防止の対策として、講習会の人数を四十人以下に制限しました。三・四段講習会では三段と四段に、錬士講習会も五段と六段に分けて

計画。その結果、年二回計画した講習会の一回目は、三段・四段・五段・教士講習会について予定通り実施できました。しかしその後は、感染者の急速拡大で八月六日から九月三十日まで緊急事態宣言が発令され、二回目については四段・五段・錬五・錬六講習会及び支部指導者伝達講習会を中止。緊急事態宣言解除後に、二回目の三段・錬五の講習会を実施しました。

一方、日本武道館と共催事業の地域弓道指導者研修会は、コロナがまん延する状況での講師派遣は不可能との判断から中止。さらに一月二十七日から三月六日まで、まん延防止等重点措置の適用や、新型コロナウイルス第六波で感染が拡大したため、外部招聘講習会も二年連続で中止せざるを得ませんでした。このような厳しい状況にもかかわらず、講師を担当して下さった先生方に感謝申しあげます。また講習会当日は、感染防止対策等対応に配慮し協力して下さった指導部員の皆様及び受講者の皆様のおかげで、感染者を出すことなく実施できたこと感謝申しあげます。

今年度は、今も新型コロナウイルス感染者の報道があり予断は許さない状況ですが、移動制限やマスク着用を外す検討もされる状況

から、収束も近いと思います。とは言え、当面は感染防止対策ガイドラインに基づく対応を見定めながら、例年通りの計画に戻す方向で計画します。三・四段講習会、五段講習会、錬士講習会、錬士講習会のみ一回実施します。また平成三十年に全日本弓道連盟では、昇段審査・各種講習会・各種競技大会を公平・公正に運営するために「講師・審査員公認資格認定制度」を施行し三年が経過しました。施行時に認定を受けた方は、有効期限三年を迎えたため、更新手続きを終えたばかりです。

一方、今後この認定を新たに受ける方も、従来通り日本スポーツ協会（JSPC）が定めるスポーツ協会公認弓道コーチ資格の保有が必須です。そのため、当該資格取得を希望する方を対象に、JSPC資格取得講習会を計五日間の予定で実施します。なお、この資格の有効期限は四年で、定期更新が必要になります。

最後に、月刊弓道に「今後の弓道界の発展を考える」とのテーマで行われた座談会の記事に興味深い記載がありました。今後指導者の意識改革や心得として参考になると思いますので、触れることに

します。たとえば、「最近の弓引きの射が面白くない。形だけで内面がついてこない。」また、「失の処理も、細かいところまで決める傾向がある」等です。これを受け、今後の講習会では、指導者は個々人の違いを否定せず受け入れ、一人ひとりの個性を引き出せるような指導を考えていきたいと思

います。また、「失の処理の基本は、互いに迷惑をかけない、畏まり慎む心をもって相手を尊重することが大切である。」とあります。これを踏まえ、今後講師を担当する先生方には、技術と理念が噛み合い、一人ひとりの個性を引き出し、気迫のある射が可能になる指導を期待したいと思います。

以下に、指導者の心得及び指導項目を示します。

（指導者の心得）

- 一、日本弓道の指導者として、自ら至誠と礼節を体現し真善美を目指すこと。
- 二、指導者の持つ影響力を自覚し、自身の言動の倫理性について常に注意を払うこと。
- 三、指導にあたり、自らが実践躬行すること。
- 四、指導にあたっては、弓道教本及び副読本に基づき全国的に統一された指導を

すること。

（指導項目）

- 一、射法、射技の基本
- ・五項目の指導。
- ・正しい射法八節の指導。
- 二、基本体の必要性
- ・動作の注意点（八項目）の指導。
- 三、射品、射格の向上
- ・高段者は常に射品、射格を高める努力を怠らないこと。
- 四、公認資格認定制度について
- ・公認資格認定制度の定着と更新方法の周知。
- ・矢羽の取り扱いと矢羽の使用に関する準則について、適正な矢羽使用についての周知を徹底する。

審査部

部長 新井 重夫



日頃より審査会の運営について、ご理解ご協力をお願いいたします。

心より感謝申し上げます。昨年度も引き続きコロナ禍の影響のため、皆様のご期待に沿った

審査会を開催することができず、心苦しい限りでした。日常生活の制限が緩和される方向ではありますが、新たな変異株の出現もあり予断を許さない状況が続いております。以前の日常を取り戻すまでには、まだ時間を要すると感じております。

昨年度は、全日本弓道連盟の「新型コロナウイルス感染症防止対策に関する地方審査会事業運営ガイドライン」に基づき、中高生ビデオ審査会二回（2,269名）、一般審査会二回（286名）、茨弓連所属の方のみの五段審査会一回（52名）を開催いたしました。

昨年度の中央審査会は、会場毎に受審申込者対象地連を指定した地域割での開催でした。コロナ禍の影響で一部の審査会が延期開催となりました。その中央審査会におきまして、六段六名、七段二名が昇段、錬士十名、教士六名が昇格されました。

皆様からお預かりした審査料と登録料の総額は約1,400万円でした。

今年度の審査会につきましては、各方面からの要請・指示および「ガイドライン」に従い、感染防止対策を図りながら、次の通り開催する予定です。

中高生対象の審査会は、引き続き、ビデオ撮影による審査（級位・初段・二段）を二回実施する予定です。各学校の顧問の先生、外部指導員の方々におかれましては、昨年度同様にお手数をおかけしますが、生徒の皆さんのためご尽力をお願いいたします。

一般審査会は、昨年度の実績を踏まえて、受審者の分散を図り、二回開催する予定です。

五段の審査は、受審申込者の所属地連を限定しない、従前通りの連合審査会が開催されており、五月に三名が昇段されました。

今年度の中央審査会も、従前通り受審申込者の所属地連にかかわらず何れの審査会にも申し込みができるようになっております。

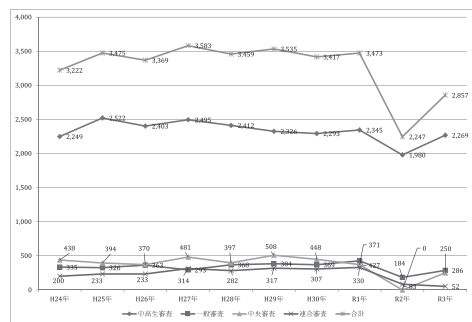
また、全日本弓道連盟にて「公益法人としての事業の在り方」の検討がなされています。昨年度からの中央審査では、公平性・公平性の観点から、全弓連役員と審査委員、審査委員と講師の兼務が禁止となりました。全弓連からの委託事業である地方審査についても、兼務禁止が今後の課題となっております。

今後も新型コロナウイルス感染者数の状況や公益法人としての全弓連の事業運営方針によっては、年度当初

に計画された審査会日程等の変更の可能性ががあります。審査会の実施につきましては、全弓連等から指示が有り次第、迅速に各支部の支部長・連絡員の方々に宛てにご連絡いたします。

まだまだ先行き不透明な状況であり、ウィズコロナの審査会について、試行錯誤が続くことと思われます。今年度も引き続き受審者、審査委員、審査部員の皆様の安全・安心を第一に考え、昨年度以上、円滑な審査会運営に努めてまいります。何かありましたら忌憚のないご意見をお寄せください。今後茨城県弓道連盟の発展および皆様のご期待通りの審査会開催に向け、一層精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

受審者数



競技部

部長 後藤 裕一



この度、中嶋鉄郎 新会長の
下で、競技部長
を引き続き拝命
しました。この

要職に重責を感じつつ光栄なこと
と受け止め、浅学非才な身ではあ
りますが、競技会という会員の研
鑽の場の提供に真摯に取り組んで
いきたいと考えております。何卒、
ご協力のほどよろしくお願いいた
します。

新型コロナウイルス感染症の影響
による制限は三年目を迎えました。
競技部役員のみならず、多
くの皆様のお力添えを頂きなが
ら、感染予防対策を講じて大会運
営をしてまいりました。2020
年春の緊急事態宣言が発出されて
から、周期的な感染の波が押し寄
せ、2022年一月の第六波まで
に、感染拡大により大会の中止を
せざるを得ない状況を何度となく
経験しました。急激な感染拡大の
折には、前会長久保田 清先生を
はじめとする副会長の先生方の適
切なご判断で、参加選手・運営役
員の健康を第一に考えての開催中

止の決断により、競技会に於ける
コロナクラスターの発生はありま
せんでした。英断に心から感謝申
し上げます。また、会員皆様の厳
しい環境下でも弓道に対する深い
愛情と多大なご協力に、改めて心
より敬意を表する次第でございま
す。

競技部といたしましては、今後
も感染の波が繰り返すことも覚悟
しながら、Withコロナの考え方
で今までの経験を教訓にしながら、
国の社会行動の規制緩和を参考
に、大会運営の規制も一部緩和を
しながら、皆様の健康を第一に考
え、弓道競技の研鑽の場として充
実した大会運営を心掛け開催して
いきたいと考えております。

今年度の競技部事業といたしま
しては、以下の四点に留意して取
り組んでまいります。

- (一) 大会参加者（選手・役員）
への傷害保険加入
- (二) 大会申し込み業務の負担軽減
減・Googleの無料アプリを活
用しての大会受付業務の導入
- (三) 地区運営係員との競技運営
の適切な運営方法の確立
- (四) 分散での大会開催問題点の
改善

数年来、競技部としては、三密
回避や運営の効率化等の観点から

分散開催しております。しかしな
がら、分散開催にも課題ござい
ます。有段者が称号者の射を見取
り稽古出来ないことや、入賞者以
外の参加者が試合後に名誉会長や
会長の講評を拝聴できないこと等
です。私自身、若い頃、ビデオカ
メラを持参し、称号者の試合を撮
影し帰宅後の研修材料にしたり、
表彰式に拍手要員として参加しな
がら、講評を拝聴し、試合での考
え方や射の着眼点を勉強したりし
ました。今後も分散開催は続けな
ければなりません、広報部と連
携し、表彰式での範士の先生方の
講評を会員の皆様方にお伝え出来
るよう進めてまいります。

『朝嵐 身にはしむなり 松風
の、目には見えねど 音のさやけ
き』という弓道歌がございます。
『弓道小事典』によると、

朝嵐とは弦音も冴えて、眠気
を覚ますという心からで、弓を
引込んで、保つうちは、我もな
く弓もなく、空々となつて一物

もさわる物なく、眠る心に至
る。朝嵐の離れは、至極の離れ
であることを各流派が詠ってお
り、引き満ちて無念無想で、我

も無く弓も無き境地から、さつ
と軽く放れた離れは、云わば入
神の離れで、矢飛びは速く、風

を切る羽音は高く、弦音は冴え
て、身に浸みる程のものがあ
る。あたかも朝の微風が、松の枝葉
の間を、吹き通る音の、さやか
に身にしみる如くであつて、其
の後に残った残身を見れば悠々
として、不動の形骸を止めるの
みである。それは、ちょうど朝
風が、松の梢を払って、渡り去つ
たのも見えない程に、微動だも
せずに、静まり返っている如く
である。かく、射芸は鮮やかで
強く烈しい心で進むが、形は悠
然自若たる所に、弓道の至極が
ある。

と書かれております。新型コロナ
ウイルスに関しては「終息」では
なく、「収束」ではないかと言わ
れます。このような状況下で先行
きの不安を抱き動揺するのではな
く、この歌のように無念無想の境
地を目指して精進していくことが
不安を払拭し心身の安定に繋がる
のではないかと思います。

末筆ですが会員の皆様方のご健
勝とご多幸をお祈り申し上げます。
そして2022年度も競技運営に
ご協力宜しくお願い申し上げます。



強化部

部長 高木 勉



この度の役員
改選で引き続き
強化部長を務め
させて頂くこと
になりました。

令和三年度、会長・副会長をは
じめ役員の先生方、強化部スタッ
フのサポートで無事一年を終了す
ることができ、皆さまには心より
感謝申し上げます。

令和四年度、中嶋会長のもと一
層の努力を致す所存でございます
ので、何卒ご指導ご協力を賜りま
すよう宜しくお願い致します。

令和三年度の成績

七月二十三日(土)

国体関東ブロック大会

(栃木県ユウケイ武道館弓道場)

成年八都県中

四都県関東ブロック通過

少年八都県中

三都県関東ブロック通過

成年男子

近の14中八位 遠的145点

五位 総合六位

国体関東ブロック不通過

成年女子

近的14中五位 遠的 96点

四位 総合四位

国体関東ブロック通過

少年男子

近的13中八位 遠的 91点

七位 総合七位

国体関東ブロック不通過

少年女子

近的16中五位 遠的 84点

四位 総合四位

国体関東ブロック不通過

令和三年、国体関東ブロック大会に出場した選手は、成年男子三名、成年女子一名が初出場となりました。

新型コロナウイルスの影響もあり、県武道館での強化練習、他県との合同練習を行うことが難しく、チームワーク、試合感を養うことが思うように出来ませんでした。

茨城県代表として初めて参加した関東ブロック大会は、不安と緊張感で普段の弓が引けなかったことと思います。この貴重な体験を今後活かして頂きたい。

三重とこわか国体は九月二十六日(日)～九月二十九日(水)三重県名張市での開催予定でしたが、新型コロナウイルスの感染が急速

に拡大した影響で八月下旬に中止が決定しました。

三重県国体関係の方々には、可能な限り大会を開催するため様々な感染防止対策を講じ検討して頂きましたが、「想定を上回る急速な感染拡大と変化に対応ができない。」ということでの中止でした。

鹿児島国体に続き二年連続で開催されない異例の事態となり、中止となった三重国体につきましては、六年後に延期しないことになりました。

茨城の選手も感染対策を行い期待と不安の中、開催されることを願ひ練習を続けてきましたが参加することが出来ず 大変残念に思っております。

今年度も関東ブロック大会、栃木国体に向けて強化部、選手が一人となり強化練習に専心して参ります。

最後に、ここ数年国体選手選考会を開催し次年度の選手候補を发掘しておりますが、選考会に参加する方が少なくなっています。皆様のご協力を宜しくお願い致します。

施設部

部長 荻谷 純生



今年度より施設部長を仰せつかりました、水戸桜川支部の荻谷です。前任の園部先生は長きに

わたり施設部をまとめられ、県大会をはじめ審査・講習会等の会場準備から令和二年に開催された「茨城国体」など無事終了されたことのご苦労に深く敬意を表するところでです。

私の恩師は「道具にも神が宿っている。自分の努力で克服できないところをその神が助けてくれる。の神様に願いを込めたい」といいます。競技で使用するものは芯は中心に、周りの紙も剥がれていません。園部先生の役員としての責任は恩師の教えと似ていると日頃より感じていたところで

今回施設部に入りましたが、今年も園部先生は施設部に残ってください。今年から三名の新人部員が入りましたので、十分指導を受けながら仕事を引継ぎたいと考えます。

武道館との協力・各部会との連

携・備品の整理整頓に心がけ、連盟運営に支障の無いよう取り組みますので、ご協力とご指導をお願いいたします。

今年三月に蔓延防止重点処置が解除されて以来世間も通常の生活に戻りつつあり、弓道行事もコロナによる中止は今のところ無いようです。県連主催の各行事もコロナ禍前のように予定されています。講習会、審査会、競技大会等の行事が円滑に運営されるよう施設部全員努力してまいりますので、よろしく願いいたします。

会議報告

県外

関東地連会長会議(4月8日)
全国地連会長会議(5月28日)
全国地連会長会議(12月22日)

県内

理事会(5月8日)
代議員会(書面開催)

研修事業報告

県外

〔関東北地区〕
指導者講習会 中止
〔関東北地区〕

指導者育成講習会 中止
中央研修会 中止

県内

- 1、講師審査員研修会(二部制)(R3/4/3 水戸 63)
 - 2、第1回五段講習会(R3/4/29 水戸 27)
 - 3、第1回四段講習会(R3/5/16 水戸 35)
 - 4、教士講習会(R3/6/19 水戸 34)
 - 5、第1回三段講習会(R3/7/4 水戸 19)
 - 6、支部指導者伝達講習会(R3/8/8 水戸 中止)
 - 7、第1回錬士五段講習会(R3/8/21 水戸 中止)
 - 8、第2回五段講習会(R3/8/29 水戸 中止)
 - 9、第2回四段講習会(R3/9/4 水戸 中止)
 - 10、錬士六段講習会(R3/9/18 水戸 中止)
 - 11、第2回三段講習会(R3/10/30 水戸 19)
 - 12、第2回錬士五段講習会(R3/11/20 水戸 15)
 - 13、外部講師招聘講習会(R4/3/26 水戸 中止)
 - (R4/3/27 水戸 中止)
- 述べ参加者数 212名

県外大会 一般

第72回全日本弓道大会

(地連別開催・通信大会)

R3/4/25(日)

・教士の部 4位 明間 勲

第68回全日本勤労者弓道選手権大会

・中止

(宇都宮市 R3/6/5~6)

第62回関東地域弓道選抜選手権大会

・中止

R3/9/4(土) 有段者の部

R3/9/5(日) 称号者の部

小瀬武道館弓道場

全日本弓道選手権大会関東ブロック予選会

R3/6/27(日)

ALSO Kぐんま武道館

・男子の部

米山 良美 4位

後藤 裕一 5位

・女子の部

黒澤 智子

柴山 純子

第72回全日本男子弓道選手権大会

R3/9/19(日)

天皇盃中央道場

第54回全日本女子弓道選手権大会

皇后盃ライブ配信

第76回国民体育大会弓道競技会

(三重県)

・中止

第72回全日本弓道遠的選手権大会

R3/10/31(日)

日本ガイシスポーツプラザ弓道場

・男子の部 瀧口 眞央

・女子の部 柴原 一利子

第33回全国健康福祉祭(ねんりんピック岐阜2021)

(岐阜 R3/10/31~11/3)

・中止

R4/3/13(日)

オンライン全国弓道大会

大会本部・全日本弓道連盟事務所

会場・土浦市武道館

1 瀧口 眞央(五段)

2 松尾 一郎(五段)

3 尾吹 将大(錬士六段)

4 菊地 俊和(錬士六段)

5 米山 良美(教士七段)

第48回全自衛隊弓道大会

(東京 R3/12/1)

・中止

県外大会 教職員

第59回関東教職員弓道大会

(神奈川) 通信大会

(神奈川 通信 8/7)

・女子個人 優勝

上東 萌 龍ヶ崎第一高校

・女子個人 3位

八巻 千夏 日立商業

第52回全日本教職員弓道選手権大会

(岐阜県 R3/8/10~11)

・中止

県外大会 高体連

第65回関東高等学校弓道大会

(群馬県 R3/6/4~6)

・男子団体の部

・準優勝 水戸桜ノ牧

・予選通過 霞ヶ浦、守谷

・予選敗退 日立第一

・男子個人の部 第7位

出野 結都(守谷)

・女子団体の部 予選通過

水戸桜ノ牧、清真学園

・予選敗退 水戸第二、

石岡商業

第66回全国高等学校弓道大会

(新潟県 R3/7/29~8/1)

・男子団体の部

・決勝トーナメント1回戦敗退

石岡第一

・女子団体の部 予選敗退

水戸桜ノ牧

・男子個人の部

・決勝4本目敗退

太田 省吾(石商)

・予選敗退

舟橋 優斗(境)

・女子個人の部 予選敗退

山形 菜奈加(日北)、
大内 柚凜(水二)

第76回国民体育大会関東ブロック大会弓道競技

(栃木県 R3/7/23~24)

・少年男子の部

・近の8位

・遠的7位

・総合7位(不通過)

・少年女子の部

・近の5位

・遠的4位

・総合4位(不通過)

第40回関東高等学校弓道個人選手権選抜大会

(東京都 R3/9/11~12)

・男子の部 第5位

中野 陽(常総学院)

・女子の部 入賞者なし

第40回全国高等学校弓道選抜大会

(茨城県 R3/12/23~25)

・男子団体の部

・決勝トーナメント2回戦敗退

土浦第二

・予選敗退 鹿島

・女子団体の部

・予選敗退 下妻第二、

竜ヶ崎第二

・女子個人の部 第7位

豊田 陽菜(水二)

第20回東日本高等学校弓道大会

(山梨県 R4/3/19~21)

・5人制男子の部 予選敗退

石岡第一、土浦第二、鹿島

・5人制女子の部 優勝
竜ヶ崎第二

・決勝T進出 石岡第一

・予選敗退 下妻第二

・3人制男子の部

・予選敗退 石岡第一、

土浦第二、鹿島

・3人制女子の部

・決勝T進出 竜ヶ崎第二

・予選敗退 石岡第一、

下妻第二

県外大会 中体連

第31回関東中学生弓道大会

(中央 R3/8/10)

・個人の部 男子

・第2位 高井 硯

(東海中)

・第8位 木暮 楓太

(東海南中)

・個人の部 女子

・第7位 金久保 琴帆

(猿島中)

第18回全国中学生弓道大会

(中央 R3/8/15~16)

参加申し込み後、参加校(チーム)の夏休み期間の中で参加校

(チーム)の指定する1日

・団体の部 女子 優勝

清真学園中

・個人の部 男子 第3位

藤田 怜生 (水戸二中)

・女子

・第2位 曾ヶ端 柚奈

(清真学園中)

・第3位 難波 真由

(清真学園中)

連盟後援行事

土浦桜祭り大会

(中止)

村松山弓道大会

(中止)

鹿島神宮弓道大会

(鹿島 4/29)

神栖弓道大会

(中止)

あやめ祭弓道大会

(中止)

県南弓道大会

(中止)

県西弓道大会

(中止)

観梅弓道大会

(中止)

茨城県弓道連盟主催(主管)県大会結果

第72回全日本大会茨城県大会

R3/4/25

▼有段者の部

優勝 瀧口 真央

準優勝 平根 伸彦

第3位 市毛 隆行

第4位 照沼 勇一

第5位 江橋 宏美

称号者の部

優勝 明間 勲

県民総体兼選手権予選

R3/5/9

▼男三段以下

優勝 山田 晋裕

準優勝 角谷 宇宙

第3位 角 直幸

第4位 川又 悠河

第5位 加藤 起基

▼男四段以上

優勝 新山 晃一

準優勝 大貫 勇

第3位 久保田 亮

第4位 熊谷 博明

第5位 齊藤 千晴

▼女三段以下

優勝 鈴木 茜

準優勝 中野 公子

第3位 八巻 千夏

第4位 鈴木 明美

▼女四段以上

優勝 島崎かおる

準優勝 沖田 紀子

第3位 石井恵理子

第4位 菅原 智子

第5位 大貫 春恵

▼称号受有者男子

優勝 後藤 裕一

準優勝 大峰 芳樹

第3位 中嶋 鉄郎

▼称号受有者女子

優勝 柴山 純子

準優勝 紫村トク子

第3位 鈴木 裕美

選手権決勝大会

R3/5/23

▼有段者男子の部

最高得点賞 木村孝太郎

優勝 永田 響

準優勝 下津 隆明

第3位 齊藤 千晴

▼有段者女子の部

最高得点賞 斎藤 詩乃

優勝 斎藤 詩乃

準優勝 石井恵理子

第3位 島崎かおる

▼称号者男子の部

最高得点賞 米山 良美

優勝 尾吹 将大

準優勝 福地 平

第3位 中井川一郎

▼称号者女子の部

最高得点賞 黒澤 智子

優勝 高羽 京子

準優勝 鈴木 裕美

第3位 齋藤ミユキ

▼関東選手権有段派遣

最高得点賞 斎藤 詩乃

最高得点賞 大貫 勇

優勝 齊藤 千晴

準優勝 永田 響

第3位 下津 隆明

▼関東選手権称号派遣

最高得点賞 尾吹 将大

最高得点賞 高木 勉

優勝 鈴木 裕美

準優勝 福地 平

第3位 高羽 京子

▼全日本関東予選男子派遣

最高得点賞 米山 良美

最高得点賞 後藤 裕一

▼全日本関東予選女子派遣

最高得点賞 黒澤 智子

最高得点賞 柴山 純子

遠の大会

R3/6/27

▼男四段以下

優勝 島田 嘉隆

準優勝 平澤 好美

第3位 松尾 一郎

第4位 永田 響

第5位 永田 修一

▼男五段以上

優勝 瀧口 真央

準優勝 久保田 亮

第3位 尾吹 将大

第4位 福地 平

第5位 高野 敬光

▼女四段以下

優勝 永井 里奈

準優勝 八巻 千夏

第3位 野川 観鈴

第4位 江橋 宏美

第5位 江橋千穂子

▼女五段以上

優勝 柴原一利子

準優勝 長谷川絵鈴

第3位 小林 美環

第4位 吉村 静華

第5位 上馬 英子

▼派遣選手男子

瀧口 真央

▼派遣選手女子

柴原一利子

夏季錬成大会

R3/8/22

茨城県非常事態宣言期間中により中止

り中止

段位別大会

R3/9/5

茨城県非常事態宣言期間中により中止

り中止

支部対抗

R3/12/11

▼団体戦

優勝 藤代

準優勝 茨城

第3位 勝田
第3位 下館A
優勝 菊地・矢野・大貫
準優勝 尾吹・小林・郡司
第3位 宮下・角田・中井川
第3位 岩田・永田・米山

ねりんぴつく選考会
R3/12/6

派遣選手
大金 勉
磯前 一巳
北原須恵雄
綿引 育子
岩間 捷雄
監督・交代選手
湯浅 政夫
越川 春恵

中野杯
R3/11/21

男子の部
優勝 瀧口 真央
準優勝 宮崎 隆之
第3位 照沼 勇一
第4位 栗島 則夫
第5位 野口 久
女子の部
優勝 沖田 紀子
準優勝 大川都志子
第3位 綿引 美穂
第4位 小林 美環

第5位 上馬 英子
称号受有者
優勝 船越 忠
準優勝 萩野谷綾子
第3位 谷田部大地
第4位 安藤 勝利
第5位 高橋 義之

新年射会
R4/1/8

射詰優勝 コロナ感染対策で優勝決定戦は行わずに、一手束中者は全員皆中賞

三段以下

男子
優勝 磯山 立樹
準優勝 壁田 昭
第3位 白田 忠教
第4位 江原 拓未
第5位 川又 悠河
女子
優勝 加藤 由姫
準優勝 中澤千枝子
第3位 鈴木 茜
第4位 高橋 秋子
第5位 萩谷 成子

四・五段
優勝 菊地 祐太
準優勝 川端 達夫
第3位 島田 嘉隆
第4位 橋本 真樹

第5位 松尾 一郎
女子
優勝 小林 美環
準優勝 岩田 京子
第3位 菅原 智子
第4位 遠藤 静子
第5位 沖田 紀子

称号受有者

男子
優勝 米山 良美
準優勝 菊地 俊和
第3位 中嶋 鉄郎
第4位 福地 平
第5位 大貫富士男

女子

優勝 高羽 京子
準優勝 石塚 美志
第3位 鈴木 裕美
第4位 中井川美枝子
第5位 柴原一利子

勤労者大会

「まん延防止等重点措置」の期限延期により中止会長副会長による選考により代表は「日製(日立)」「三菱ケミカル」

茨城県教職員弓道連盟県内大会結果
春季大会
R3/5/1

男子の部

優勝 星 浩一
準優勝 栗田 克紀
第3位 千葉 一茂
第4位 門井 寿通
第5位 谷田部大地
女子の部
優勝 大川都志子

秋季大会
R3/11/28

男子の部

優勝 辻 尚宏
準優勝 後藤 裕一
第3位 青柳 優
第4位 塚本 重毅
第5位 白石 直之

女子の部

優勝 大金喜代子
準優勝 上東 萌
第3位 八巻 千夏
総合の部
優勝 辻 尚宏

高体連県内大会結果
春季大会 兼 関東大会県予選
R3/5/7 (女子)
R3/5/8 (男子)

男子団体
優勝 霞ヶ浦

準優勝 守谷
第3位 日立第一A
第4位 水戸桜ノ牧
女子団体
優勝 水戸桜ノ牧
準優勝 水戸第二A
第3位 清真学園A
第4位 石岡商業B

男子個人

優勝 青柳 匠海(桜牧)
準優勝 谷畑 智哉(霞浦)
第3位 飯塚 翔(境)

女子個人

優勝 横須賀琉愛(桜牧)
準優勝 松尾 百花(藤代)
第3位 木村 璃音(守谷)

高校総体予選 県民総体予選
全国総体予選 国体茨城大会
R3/6/12、13、15

男子団体

優勝 石岡第一
準優勝 水戸第一
第3位 清真学園
第4位 日立第一
第5位 石岡商業
第6位 土浦第三

女子団体

優勝 水戸桜ノ牧
準優勝 日立北
第3位 古河第三
第4位 水戸第一

第5位 清真学園
第6位 境

▼男子個人

優勝 舟橋 優斗(境)

準優勝 太田 省吾(石商)

第3位 根本 志竜(清真)

第4位 遠藤 陽史(日一)

第5位 大森 楓(日北)

第6位 本多 涼雅(石二)

▼女子個人

優勝 山形菜奈加(日北)

準優勝 大内 柚凜(水二)

第3位 持木 優花(古三)

第4位 宇川 利羅(竜二)

第5位 長塚 愛生(竹園)

第6位 平石 智奏(境)

国体選手選考会

R3/5/20(1次)

R3/5/29(2次)

▼候補選手

男子 木村 蓮(石二)

仲田 悠人(清真)

本多 涼雅(石二)

監督 土居 義邦(石二)

女子 富山 優香(守谷)

木村 璃音(守谷)

松尾 百花(藤代)

監督 松崎 稔昌(守谷)

県個人選手権兼関東個人選手権県予選会

コロナウイルス対策の為中止関

東個人出場者は規約に従って直近
の大会である全国総体県予選の個
人上位から推薦

新人大会兼全国選抜予選

R3/11/2(女子)

R3/11/3(男子)

▼男子団体

優勝 土浦第二A

準優勝 鹿島

第3位 石岡第一

▼女子団体

優勝 竜ヶ崎第二

準優勝 下妻第二

第3位 石岡第一

清真学園A

▼男子個人

優勝 石塚 南(海二)

準優勝 幡谷俊太郎(石商)

第3位 阿部 慧水(土二)

▼女子個人

優勝 井門 果歩(清真)

準優勝 豊田 陽菜(水二)

第3位 宮本あすか(竜二)

県高校弓道冬季大会

R3/3/28(女子)

R3/3/29(男子)

東日本大会へは規約に従い直近
の新人戦の結果で

男子 土浦第二、鹿島、石岡第一

女子 竜ヶ崎第二、下妻第二、
石岡第一を推薦

▼男子団体

優勝 水戸桜ノ牧

準優勝 清真学園

第3位 土浦第二

▼女子団体

優勝 水戸第二

準優勝 下妻第二

第3位 土浦第二

▼男子個人

優勝 石井 啓斗(桜牧)

準優勝 安部 慧水(土二)

第3位 亦野 涼雅(清真)

▼女子個人

優勝 小松 花菜(妻二)

準優勝 浅野 芽衣(土二)

第3位 田能 鈴(取二)

中体連県内大会結果

県総合体育大会

R3/7/24

▼男子団体

優勝 水戸二中

準優勝 東海南中

第3位 城ノ内中

▼女子団体

優勝 清真学園中

準優勝 東海中

第3位 水戸二中

▼男子個人

優勝 西野 優稀(東海中)

準優勝 藤田 怜生(水戸二中)

第3位 近井 謙斗(水戸二中)

▼女子個人

優勝 曾ヶ端柚奈(清真)

準優勝 高木美江子(東海)

第3位 重藤 莉央(清真)

中野優勝旗大会

R3/8/4、26

通信大会

▼男子団体

優勝 清真学園中A

準優勝 水戸二中A

第3位 土浦一中B

▼女子団体

優勝 清真学園中A

準優勝 水戸二中C

第3位 猿島中A

県新人大会

R3/11/4

▼男子団体

優勝 阿見中

準優勝 太田中

第3位 愛宕中

▼女子団体

優勝 清真学園中

準優勝 千波中

第3位 東海中

▼男子個人

優勝 豊田 滉人(清真)

準優勝 永尾 仁(清真)

第3位 鈴木 陽斗(東海南)

▼女子個人

優勝 中村 莉奈(猿島)

準優勝 片岡 重(清真)

第3位 岩瀬 結愛(清真)

武道フェスティバル

R3/11/13

▼男子の部

優勝 西尾 亮佑(清真)

準優勝 松井 優人(千波)

第3位 豊田 滉人(清真)

入賞 坂爪 奨(東海南)

岡田 和弥(東海南)

三瓶 怜生(愛宕)

渡辺 奏哉(東海南)

松本 祐太(東海)

白倉 遼大(清真)

宮越啓士郎(城西)

▼女子の部

優勝 若松 杏奈(城ノ内)

準優勝 臼井 美颯(東海)

第3位 松岡 知世(水戸二)

入賞 平田 桃子(千波)

小松崎汐里(清真)

諏訪莉佳子(城西)

礪山 真緒(清真)

曾ヶ端柚奈(清真)

重藤 莉央(清真)

難波 真由(清真)

岩瀬 結愛(清真)

令和3年度 中央(臨時)審査会 合格者

No	段位 称号	氏 名	所 属	取得日	審 査 場 所
1	六段	尾 吹 将 大	茨 城	R3.10.30	令和3年度【北関東第1地区】
2	六段	菊 地 俊 和	藤 代		
3	六段	沓 掛 忠 三	東 海		
4	六段	飯 田 悦 子	土 浦		
5	六段	山 口 純	蒼 藤 会	R4. 1.22	令和3年度【北関東第1地区】
6	六段	岩 田 隆	下 館		
7	七段	後 藤 裕 一	土 浦 亀 城	R3.12.25	令和3年度【北関東第2地区】
8	錬士	谷田部 大地	土 浦 亀 城	R3. 7. 4	令和3年度【北関東第2地区】
9	錬士	久保田 亮	日製(日立)		
10	錬士	古 山 道 子	藤 代		
11	錬士	小 林 美 環	下 館	R3.12.25	令和3年度【北関東第2地区】
12	錬士	小 沼 隆 史	霞 ケ 浦		
13	錬士	石 川 直 人	神 栖		
14	錬士	杉 山 義 光	水 戸 桜 川		
15	錬士	野 口 久	土 浦		
16	錬士	橋 本 真 樹	土 浦 亀 城	R4. 3.12	令和3年度【北関東第2地区】
17	錬士	大 金 勉	友 部		
18	教士	村 上 美 保	友 部	R3.10.8	令和3年度推薦
19	教士	辻 尚 宏	土 浦 亀 城	R3.10.31	令和3年度【北関東第1地区】
20	教士	小 出 則 行	取 手		
21	教士	境 貴 洋	水 戸 桜 川	R4. 1.23	令和3年度【北関東第1地区】
22	教士	荻 野 淑 江	神 栖		

令和3年度 五段審査会 合格者

No	取得	氏 名	所 属	取得日	審 査 場 所
1	五段	松 尾 一 郎	つ く ば	R 3.10.17	【茨城】五段審査
2		島 田 嘉 隆	霞 ケ 浦		
3		笹 沼 健 一	日製(日立)		